

## ◎景気ウォッチャー調査[2021年6月]

### 2021年6月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を13.4ポイント上回る46.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、自粛疲れで外出者が増加しているため、人通りが多くなっている。」(商店街)、「経済活動、レジャー、イベントが少しずつ再開し、主力商品の販売数量が回復傾向にある。」(コンビニ)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を14.0ポイント上回る42.4となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「緊急事態宣言の間もデータセンターやITに関する引き合いは増加している。客が今年度計画しているIT投資について達成に向けた動きが活発化してきている。」(通信業)、「自動車産業の半導体不足問題等、懸念材料はあるが、景気は徐々に良くなっている。」(化学工業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を8.9ポイント上回る57.4となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「増員や体制強化などを目的に、求人数が前年に比べ大幅に増加している。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスの影響を受け、業績が低下している企業が多いが、将来を見据えて採用活動を実施している企業も多く存在している。」(学校)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を18.5ポイント上回る54.4となった。

	6月	5月	前月差
合計	46.7	33.3	13.4
家計動向関連	42.4	28.4	14.0
企業動向関連	57.4	48.5	8.9
雇用関連(参考値)	54.4	35.9	18.5

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を5.7ポイント上回る52.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、東京オリンピック・パラリンピックのリスクも超えている時期になるため、客の消費意欲も元に戻る。」(通信会社)、「緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスのワクチン接種も進むことから、人の流れが良くなる。」(テーマパーク)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を6.0ポイント上回る51.5となった。

企業動向関連は、「新型コロナウイルスワクチンの一般向け接種が進むと、関東からの県外出張が可能となり、関東方面からのデータセンター見学などが今より活発になるため、景気は良くなる。」(通信業)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、緩やかではあるが荷動きも活発になる。」(輸送業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.4ポイント上回る52.9となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「アフターコロナを見据えた新規採用が活発になる。」(人材派遣会社)、「新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、飲食業や旅行業の動きが活発化する。」(学校)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を11.9ポイント上回る60.3となった。

	6月	5月	前月差
合計	52.7	47.0	5.7
家計動向関連	51.5	45.5	6.0
企業動向関連	52.9	51.5	1.4
雇用関連(参考値)	60.3	48.4	11.9